

技術のミスカストを減らすために

岩手県工業技術センターの福祉機器製造支援体制

前岩手県工業技術センター所長

甲田壽男

(現 工業技術院機械技術研究所首席研究官)

平成9年10年の二年間岩手県工業技術センターに出向し、平成9年の福祉機器研究開発の調査研究から始まって平成10年度からの岩手県リハビリテーションセンターとの共同研究のスタート、さらには国の補正予算によるもの作り試作開発支援センター整備事業への応募採択による三次元動作解析装置等を用いた機械金属木製品製造業界の福祉機器用具試作開発のためのプロジェクトの実施に立ち会う機会に恵まれた。

福祉機器開発は、現場を持ったリハセンとの連携が重要で、かつ県内中小企業の技術的支援を旗印に掲げる工業技術センターの役割からも企業をも抱き込んだ形でスタートさせる体制を考えていた。さらに、折角試作した福祉機器を現場で活用していただくにはどのようにすればよいか知恵を出し合い、平成10年6月に竣工したウエルフェアテクノハウス水沢の活用も考慮に入れ、試作する前の段階から県庁をも積極的に取り込んだ形の体制が出来ればよいという結論に達した。工業技術センターが提案した支援体制図を示す。保険福祉部など福祉現場と密接な関係のある部署に最初から口も（金も）出していただくと、出来上がった試作品に対しても県がリードユーザになってくれるという甘い期待もある。筑波に戻り再び福祉機器研究開発に取り組む昨今、岩手県工業技術センターの今後の成果を期待して見守っているところである。

